

2023 年度成人科テキスト

「聖書日課と分かち合い」 8月号



名前

お知らせ

◇ 毎週、成人科を行っています。ぜひご出席ください。

10:15～10:50 地下フェロシップホールにて

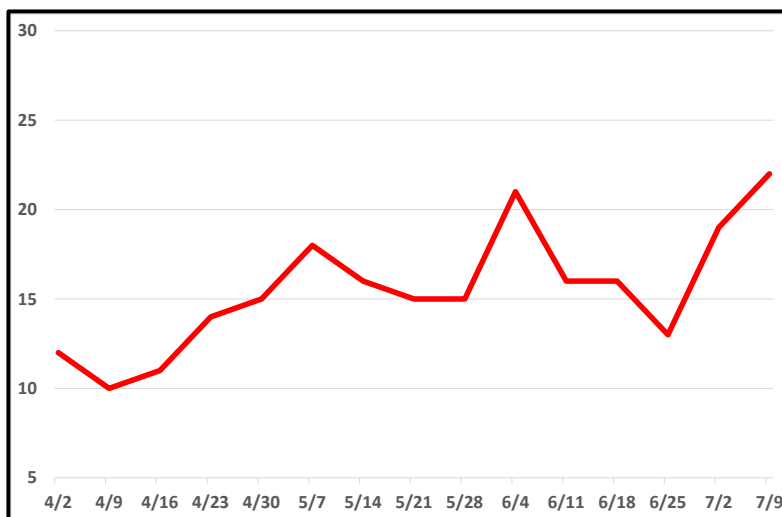
◇ 受付で出席表に記入し、グループ分けの番号札を引いてから着席ください。

◇ 後から来られる方のために、前列への着席にご協力をお願い致します。

◇ 「聖書教育」誌の購読をお勧めしています。このテキストと併せて、ぜひお読みください。ご希望の方は事務室までお知らせください。

◇ このテキストのボックスへの配布をご希望される方は、担当者（岩崎秀子姉、宇佐美典子姉、郷健人兄）までお知らせください。

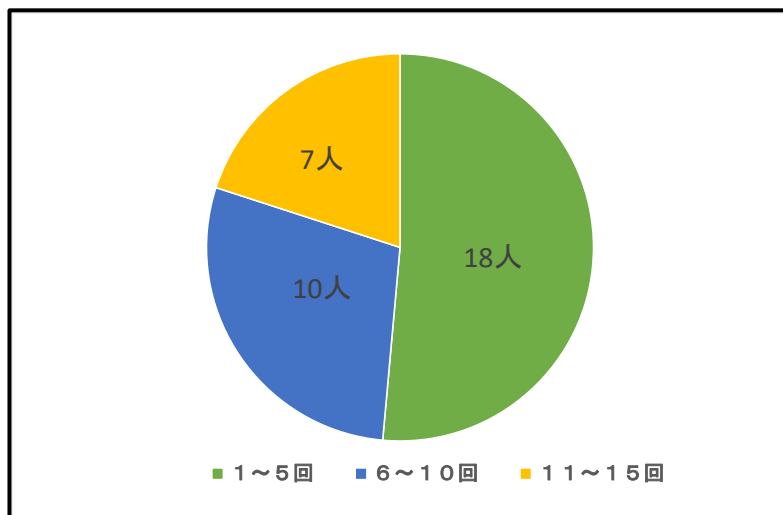
◇ ショートメッセージ動画は教会ホームページ上でも視聴できます。10:15のスタートには間に合わない・・・という方や、お休みされた方、もう一度聞きたいと思われる方など、ぜひご活用ください。



今年度、7/9までの全15回に1度でもご出席くださった方が35名いらっしゃいます。週ごとの出席者数も少しずつ増えてきています。

感謝です!

毎週、時間が足りないほど熱く、祝福に満ちた分かち合いが成されています。ぜひ声を掛け合い、成人科の時間へとお集まりください。



第19課「カインの罪」

聖書箇所： 創世記4章1～12節

主題聖句： 罪は戸口で待ち伏せており、お前を求める。
お前はそれを支配せねばならない。(創世記4章7節b)

先週学んだ創世記3章には、人間の犯した最初の罪について書かれていました。サタンにそのかされて神さまとの約束を破ってしまったアダムとエバは、神さまから罪を告白する機会を与えられたにもかかわらず、謝るところか、言い訳をし、他者に責任を押し付け、エデンの園から追い出されてしまいました。

しかし、そのような罪を犯したアダムとエバをも神さまは憐れんでくださり、二人に皮の衣を着せ、エバがすべての命あるものの母となることをゆるしてくださったのです。

二人から生まれたカインは農夫となり、その弟アベルは羊飼いにになりました。ある時、二人はそれぞれ働いて得たものの中から、カインは農作物を、アベルは羊の初子を神への献げものとして持ってきました。

しかし、神は、アベルとその献げものには目を留められました。カインとその献げものには目を留められませんでした。なぜなのでしょう。

ヘブライ人への手紙11章4節に次のように書かれています。

信仰によって、アベルはカインより優れたいけにえを神に献げ、その信仰によって、正しいものであると証明されました。

「血はその中の命によって贖いをするのである。」(レビ記17章11節)「血を流すことなしには罪の赦しはありえないのです。」(ヘブライ人への手紙9章22節)と書かれているように、カインの献げものが血によるものでなかったからでしょうか？

アベルが初子を献げたのに対して、カインは収穫の中から適当に選んで、あるいは残り物を献げたのでしょうか？

それとも、神への信仰心に違いがあったのでしょうか？「アベルとその献げ物」「カインとその献げ物」と書かれていることから、献げたものだけを主が問題にされているのではないことがわかります。

しかし、聖書には、ただ、「主はアベルとその献げ物に目を留められたが、カインとその献げ物には目を留められなかった。」(4～5節)と書かれているだけなので、本当のところ、神さまがどのように考えていらしたのかはわかりません。

大切なことは、神さまのなさることが自分の意にそぐわない時、納得がいかない時に、どうするかです。

カインは、激しく怒って顔を伏せました。「どうして怒るのか。どうして顔を伏せるのか。」との問いかけにも返事をしません。神さまとのつながりを断ち切ってしまったのです。

自分も一生懸命働いて、献げに来たのに、弟のことばかり褒めて、自分のことは無視している…と、怒りが湧き上がってくるカインの気持ちは十分に理解できます。しかし、神の選びは、往々にして、私たち人間には理解できないものです。私たちは、人間の常識で考える「平等」に神さまを当てはめてしまいがちです。しかし、この世界は不平等で満ち溢れています。お金持ちもいれば、今日食べるものにも困る人もいます。家族や友人に恵まれている人もいれば、孤独な人もいます。健康な人もいれば、病に苦しんでいる人もいます。突然、事故や事件、災害に巻き込まれる人とそうでない人がいます。しかし、これらはすべて、人間の目から見た「平等」であって、神さまが私たち一人一人に注いでくださる愛の大きさは別のものです。

カインはなぜ顔を伏せ、答えなかったのでしょうか。自分に落ち度があるとわかっていて、でも、それを認めたくなかったのでしょうか？それとも、自分より下の弟に負けたことが悔しくて仕方なかったのでしょうか？

どちらにしても、カインは神さまのなさることを受け入れず、神さまに対して心を閉ざし、ついに弟アベルを殺してしまったのです。

「なぜ、弟のことばかり見るのですか？私の何が良くないのですか？私のことも見てください！」と問いかけていけば、「カイン、わたしはおまえのことも見ているよ。おまえにもたくさんのお恵みを与えているよ」と、神さまとの変わらぬ関係が続いて行ったに違いありません。しかし、カインは戸口で待ち伏せている罪に負け、罪に支配され、感情のままに罪を犯してしまったのです。

しかも、「お前の弟アベルは、どこにいるのか。」という主の問いかけにも、「知りません」と嘘をつきます。もちろん神さまはカインがしたことをご存じです。その上で、カインに問いかけているのは、カインに罪の告白のチャンスを与えてくださっているのです。しかし、カインは「知らない」と嘘をついた上、「わたしは弟の番人でしょうか」と開き直り、神さまに厳しく罰せられることとなります。

私たちは、神さまから感情を与えられました。感情は時に厄介で、トラブルの元となります。しかし、感情があるおかげで、私たちは豊かな生活を送ることができます。

戸口で待ち伏せている罪に支配されないように、自分の考えではなく、また、人と比べるのではなく、主の真理に基づいて正しいことを選び取っていきけるよう、常に主を見上げて歩んでまいりましょう。

(担当：田中 由記子)

～分かち合い～

◇ 神さまからの語りかけに素直になれず、顔をそむけてしまったことがありますか？

◇ 人との関係がこじれて、神さまとの関係も崩れてしまった経験はありますか？

8/6-12 今週の聖書日課



8月6日(日) 創世記4章1 - 12節

1 さて、アダムは妻エバを知った。彼女は身ごもってカインを産み、「わたしは主によって男子を得た」と言った。2 彼女はまたその弟アベルを産んだ。アベルは羊を飼う者となり、カインは土を耕す者となった。3 時を経て、カインは土の実りを主のもとに献げ物として持って来た。4 アベルは羊の群れの中から肥えた初子を持って来た。主はアベルとその献げ物に目を留められたが、5 カインとその献げ物には目を留められなかった。カインは激しく怒って顔を伏せた。6 主はカインに言われた。

「どうして怒るのか。どうして顔を伏せるのか。7 もしお前が正しいのなら、顔を上げられるはずではないか。正しくないなら、罪は戸口で待ち伏せており、お前を求める。お前はそれを支配せねばならない。」

8 カインが弟アベルに言葉をかけ、二人が野原に着いたとき、カインは弟アベルを襲って殺した。

9 主はカインに言われた。

「お前の弟アベルは、どこにいるのか。」

カインは答えた。

「知りません。わたしは弟の番人でしょうか。」

10 主は言われた。

「何ということをしたのか。お前の弟の血が土の中からわたしに向かって叫んでいる。11 今、お前は呪われる者となった。お前が流した弟の血を、口を開けて飲み込んだ土よりもなお、呪われる。12 土を耕しても、土はもはやお前のために作物を産み出すことはない。お前は地上をさまよひ、さすらう者となる。」

アベルの血は土の中から神に向かって叫んでいるとあります。兄の手により無残に殺されてしまったことを嘆き訴えているのでしょうか、いいえ、アベルの血の叫びは、兄弟の絆が絶たれ、代わりに人類は憎しみ、妬み、報復、流血の中を歩まなくてはならなくなってしまうことを嘆き、神に和解を訴えているのです。

8月7日（月）ヘブライ人への手紙12章24節

新しい契約の仲介者イエス、そして、アベルの血よりも立派に語る注がれた血です。

アベルは兄カインに献げ物ことで妬まれ、殺されました。主イエスは肉の兄弟であるユダヤ人に妬まれ殺されました。アベルが流した血は神に和解を叫びましたが、イエスが流された血は新しい和解の契約を締結する印そのもので、アベルの流した血は長い年月を経て主イエスの十字架によって贖われました。

8月8日（火）ヨハネの手紙一4章20-21節

20「神を愛している」と言いながら兄弟を憎む者がいれば、それは偽り者です。目に見える兄弟を愛さない者は、目に見えない神を愛することができません。21神を愛する人は、兄弟をも愛すべきです。これが、神から受けた掟です。

まず神さまの方から私たちを愛してくださり、私たちはその愛を知ったのですから、兄弟たちへの愛を実践しましょう。神さまへの私たちの愛は兄弟を愛することによって表現できます。愛は神から出ているからです。

8月9日（水）詩編133編1-3節

1【都に上る歌。ダビデの詩。】

見よ、兄弟が共に座っている。

なんという恵み、なんという喜び。

2かぐわしい油が頭に注がれ、ひげに滴り

衣の襟に垂れるアロンのひげに滴り

3ヘルモンにおく露のように

シオンの山々に滴り落ちる。

神学者ボンヘッファーは「キリスト者の兄弟の交わりの中で生きることを許されているのは恵みであり、恵み以外の何ものでもないことを知りなさい」と自書で語っています。主イエスを通して兄弟が共に座ること（生きること）を神に感謝し、その幸せと喜びを共に分かち合いましょう。

8月10日（木）エフェソの信徒への手紙1章13－14節

13あなたがたもまた、キリストにおいて、真理の言葉、救いをもたらす福音を聞き、そして信じて、約束された聖霊で証印を押されたのです。 14この聖霊は、わたしたちが御国を受け継ぐための保証であり、こうして、わたしたちは贖われて神のものとなり、神の栄光をたたえることになるのです。

「真理の言葉、救いの福音を聞き、それを信じたことにより約束の聖霊をもって証印を押された」とあります。「私たち」も「あなたがた」も神さまが用意して下さった約束のものの共同相続人となったのです。

8月11日（金）ローマの信徒への手紙12章19－21節

19愛する人たち、自分で復讐せず、神の怒りに任せなさい。『復讐はわたしのすること、わたしが報復する』と主は言われる」と書いてあります。 20「あなたの敵が飢えていたら食べさせ、渴いていたら飲ませよ。そうすれば、燃える炭火を彼の頭に積むことになる。」 21悪に負けることなく、善をもって悪に勝ちなさい。

復讐することを禁じています。なぜなら復讐は創造主であられる神の特権であり、そして私たちに復讐心があるときは怒りに満たされ、福音を伝えることができず、平和を保つこともできないからです。悪と戦えばますます深刻な対立を引導してしまうこともあります。それゆえ復讐は神にお委ねするのが最善なのです。

8月12日（土）マタイによる福音書18章21－22節

21そのとき、ペトロがイエスのところに来て言った。「主よ、兄弟がわたしに対して罪を犯したなら、何回赦すべきでしょうか。七回までですか。」 22イエスは言われた。「あなたに言うておく。七回どころか七の七十倍までも赦しなさい。

7回赦すことも相当寛大だと思いますが、主イエスの答えは7の70倍でした。完全数7の70倍ということは無限大ということです。神さまから多くの赦しを与えられている者は、赦しを求めてくる兄弟に対して常に赦しの心で接するべきだと教えています。

（担当：宇佐美 典子）



第20課「神の憐れみを受けて」

聖書箇所： 創世記4章13～26節

主題聖句： 主はカインに会う者がだれも彼を撃つことのないように、カインにしるしを付けられた。(創世記4章15節b)

神さまへの捧げものが自分だけ受け入れられなかったことから、弟の命を奪うという愚かな行動に出たカイン。全てをご存じの神さまから「お前の弟アベルは、どこにいるのか。」と聞かれた時に悔い改めのチャンスはありましたが、不誠実な態度をとることで無駄にしてみました。カインの罪は、殺人という行為自体もそうですが、このように神との関係を自ら断ち切っていることがより本質的な罪であり、また私たちが自らを省みるためにも思いを馳せるべき点なのです。

神さまの怒りは激しく、カインに「土はもはやお前のために作物を産み出すことはない。」とまで語られました。アダムはその罪によってエデンの園を追放され、自ら土を耕す者とさせられましたが、カインはそれすら出来ないとされたのです。「お前は地上をさまよひ、さすらう者となる。」とも言われた神さまですが、自ら命の糧を生み出すことのできないカインには、死の宣告に近い重みがあったでしょう。

ここでようやく、カインは悔い改めの思いに至ります。「わたしの罪は重すぎて負いきれません。」と語るこの「罪」が、殺人のみを指すのか、その後の神さまへの向き合い方も含めているのかは分かりません。しかしこの箇所から学ぶにあたっては、日々悔い改めの必要な私たちが、行いだけでなく、神さまとの関係も含めて見つめ直すことの大切さを理解したいと思います。

カインは「わたしに会う者はだれであれ、わたしを殺すでしょう。」と恐怖を口にします。これは、「アベル殺しの犯人として人々の怒りを買ひ、自分も殺される」と怯えているわけではありません。カインは手前で「あなたがわたしをこの土地から追放なさり、わたしが御顔から隠されて、地上をさまよひ、さすらう者となってしまうば…」と言っています。つまり神から完全に見捨てられ、神からの愛と祝福に満ちた世界から弾き出されることを深く恐れているのです。

自ら神の差し出した手を振り払っておきながら、神の怒りを前に目が開かれ、ようやく自分の過ちに気付くことができたカイン。それは、子どもが悪事を叱られても素直に認めず、親に「それならもうウチの子じゃありません！」とまで言われてようやく反省する…そんな姿にすら見えます。しかし私たちのうち誰がそれを笑ったり、裁いたりできるのでしょうか。

罪の重さに気付き、神さまに対して恐れと嘆きをそのまま差し出すことのできたカインは、その時点で神との関係性が回復しているように見えます。それ故の心変わりなのかは分かりませんが、神さまはカインに「しるし」を与えられました。カインを保護するこの「しるし」は、神さまとカインの関係性が継続していることの証でもあったでしょう。神さまは、たとえばアベルを生き返らせるとか、時間を巻き戻す等といったことはせず、行為としての罪を「無かったこと」にはされませんでした。

それでもカインに保護を与えることは、放蕩息子の父親が示した愛のようであり、さらに言えばイエスさまの十字架による贖いそのものです。カインに与えられた「しるし」が具体的にどのようなものだったかは分かりませんが、カインはそれを見るたびに「愚かなことをした自分をも、神は守ってくださる」と勇気を得たことでしょう。十字架を見上げる私たちも、同じでありたいと願います。

さて、カインはこのように神との関係性を回復させ、保護を得てその先の人生を送りましたので、信仰の面においてはハッピーエンドのようにも見えます。しかし、聖書は人間の現実をきちんと描きます。カインから5代後のレメクはこう語ります。

「わたしは受ける傷のために、人を殺し、受ける打ち傷のために、わたしは若者を殺す。カインのための復讐が七倍ならば、レメクのための復讐は七十七倍」

自らを害するものがあれば、自らの力で報復することの宣言です。先祖カインから受け継いできたであろう「7倍の復讐」という、本来は神のお守りを表現する言葉を誤用し、自らが強烈な復讐をしようと心に決めています。レメクの子トバル・カインが「鉄のすべての刃物を鍛える者となった」すなわち武器の造り手となったと想像できることから、人間の過ちの歴史が始まっていくことを予感させます。

せっかくカインが体験した神の愛が、正しく受け継がれていないこと。あの戦争から僅か70数年でも様々な反省が薄れ同じ過ちへと進みかねない現状であったり、「宗教二世」という言葉がクローズアップされ信仰の継承に悩む方が多いことを重ねずにいられません。私たちに聖書という不変の御言葉が与えられていることの、圧倒的な恵みを覚え、常に学び続け、御言葉をそのままに受け止め、受け継ぐ者でありたいと思います。

アダムの子孫エノスの時代に、「人々は主の御名を呼び始めた」つまり礼拝が始まったことが示されています。カインとアベルも神への捧げものはしていましたが、より具体的な神への賛美が、集団で行われ始めたのかもしれませんが。このエノスからさらに何代も後にノアが生まれ、墮落した世の中にあっても神に従う人であったことを思うと、礼拝の意義、神との交わりを保ち続ける意味が感じられます。神からいただいた恵みを自分の中だけに押しとどめず、周りの方々にも伝え、共に礼拝する喜びを拡げてまいりましょう。

(担当：郷 健人)

～分かち合い～

- ◇ あなたにとって、神さまからのお守りを感じる「しるし」となるものはありますか。目に見えるものでも、見えないものでも結構です。
- ◇ 御言葉を正しく受け継いでいくために、私たちにはどのようなことができるでしょうか。

8/13-19 今週の聖書日課



8月13日(日) 創世記4章13-26節

13カインは主に言った。

「わたしの罪は重すぎて負いきれません。 14 今日、あなたがわたしをこの土地から追放なさり、わたしが御顔から隠されて、地上をさまよい、さすらう者となってしまえば、わたしに会う者はだれであれ、わたしを殺すでしょう。」

15 主はカインに言われた。

「いや、それゆえカインを殺す者は、だれであれ七倍の復讐を受けるであろう。」

主はカインに会う者がだれも彼を撃つことのないように、カインにしるしを付けられた。 16 カインは主の前を去り、エデンの東、ノド（さすらい）の地に住んだ。

17 カインは妻を知った。彼女は身ごもってエノクを産んだ。カインは町を建てていたが、その町を息子の名前にちなんでエノクと名付けた。 18 エノクにはイラドが生まれた。イラドはメフヤエルの父となり、メフヤエルはメトシャエルの父となり、メトシャエルはレメクの父となった。

19 レメクは二人の妻をめぐらした。一人はアダ、もう一人はツイラといった。 20 アダはヤバルを産んだ。ヤバルは、家畜を飼い天幕に住む者の先祖となった。 21 その弟はユバルといい、豎琴や笛を奏でる者すべての先祖となった。 22 ツイラもまた、トバル・カインを産んだ。彼は青銅や鉄でさまざまな道具を作る者となった。トバル・カインの妹はナアマといった。

23 さて、レメクは妻に言った。

「アダとツイラよ、わが声を聞け。

レメクの妻たちよ、わが言葉に耳を傾けよ。

わたしは傷の報いに男を殺し

打ち傷の報いに若者を殺す。

24 カインのための復讐が七倍なら

レメクのためには七十七倍。」

25 再び、アダは妻を知った。彼女は男の子を産み、セトと名付けた。カインがアベルを殺したので、神が彼に代わる子を授け（シャト）られたからである。

26 セトにも男の子が生まれた。彼はその子をエノシュと名付けた。主の御名を呼び始めたのは、この時代のことである。

弟アベルを殺めてしまったカインに対して、その地からの追放はするけれども愛を持って接し、守って下さる神さま。ただ、23・24節のレメクの言葉は何とも。あえて聖書に記しているのには意味があるとは思いますが、子供たちが様々な職種の先祖として用いられていくから故の言葉なのかなとは思いますが…。

8月14日(月) 創世記26章25節

イサクは、そこに祭壇を築き、主の御名を呼んで礼拝した。彼はそこに天幕を張り、イサクの僕たちは井戸を掘った。

前節で主がイサクに現われ、祝福を受けたことに対する行動です。今は救い主であるイエスキリストさまを与えられ、御霊を通して日々の恵みを頂いています。しっかり恵みを受け取り、感謝の心を持って礼拝をお捧げしていきたいですね。

8月15日(火) ローマの信徒への手紙10章9-13節

9口でイエスは主であると公に言い表し、心で神がイエスを死者の中から復活させられたと信じるなら、あなたは救われるからです。10実に、人は心で信じて義とされ、口で公に言い表して救われるのです。11聖書にも、「主を信じる者は、だれも失望することがない」と書いてあります。12ユダヤ人とギリシア人の区別はなく、すべての人に同じ主がおられ、御自分呼び求めるすべての人を豊かにお恵みになるからです。13「主の名を呼び求める者はだれでも救われる」のです。

ここの箇所を読む時、バプテスマ式の映像が思い浮かびます。私たち皆が通った道、イエスキリストさまは呼び求める全ての人を豊かに恵みに満たして下さいます。

8月16日(水) 出エジプト記20章24節

あなたは、わたしのために土の祭壇を造り、焼き尽くす献げ物、和解の献げ物、羊、牛をその上にささげなさい。わたしの名の唱えられるすべての場所において、わたしはあなたに臨み、あなたを祝福する。

今も毎週世界中の教会で礼拝を捧げる一人ひとりに主が臨んで下さり、祝福して下さいます。

感謝！

8月17日（木）マタイによる福音書15章16－20節

16 イエスは言われた。「あなたがたも、まだ悟らないのか。 17 すべて口に入るものは、腹を通して外に出されることが分らないのか。 18 しかし、口から出て来るものは、心から出て来るので、これこそ人を汚す。 19 悪意、殺意、姦淫、みだらな行い、盗み、偽証、悪口などは、心から出て来るからである。 20 これが人を汚す。しかし、手を洗わずに食事をして、そのことは人を汚すものではない。」

自分の中の醜い心が口から出てきてしまい、それが人を汚す。言葉を選んで話せる人になれるように。

8月18日（金）エレミヤ書18章5－10節

5 そのとき主の言葉がわたしに臨んだ。 6 「イスラエルの家よ、この陶工がしたように、わたしもお前たちに対してなしえないと言うのか、と主は言われる。見よ、粘土が陶工の手の中にあるように、イスラエルの家よ、お前たちはわたしの手の中にある。

7 あるとき、わたしは一つの民や王国を断罪して、抜き、壊し、滅ぼすが、 8 もし、断罪したその民が、悪を悔いるならば、わたしはその民に災いをくだそうとしたことを思いとどまる。

9 またあるときは、一つの民や王国を建て、また植えると約束するが、 10 わたしの目に悪とされることを行い、わたしの声に聞き従わないなら、彼らに幸いを与えようとしたことを思い直す。」

「(お前たちは) わたしの手の中にある」。神さまから離れた生活を送ってしまっても「わたしの手の中」にある。大き過ぎる故の畏怖の念はありますが、嬉しいですね。それと、ここでは悪(罪)を悔いる心を持つことが大事なことだと伝えていきます。

8月19日（土）ヘブライ人への手紙 11章7節

信仰によって、ノアはまだ見ていない事柄について神のお告げを受けたとき、恐れかしくみながら、自分の家族を救うために箱舟を造り、その信仰によって世界を罪に定め、また信仰に基づく義を受け継ぐ者となりました。

ノアは「信仰によって」神さまからのお告げに従いました。神さまからのお告げがあった時に「信仰によって」従うことを選び取り、今ある所から歩みだしていくこと。「信仰がなければ、神に喜ばれることはできません。」(11:6) とあるように、神さまに喜ばれることをしていきたいですね。

(担当：栗山 義亜)



第21課 「洪水の予告」

聖書箇所： 創世記6章5～22節

主題聖句： ノアは、すべて神が命じられたとおりに果たした。(創世記6章22節)

6章9節に「これはノアの物語である。」とあります。ノアの箱舟のお話は多くの方が知っている有名な物語です。クリスチャンでなくても「ノアの箱舟」という言葉は聞いたことがあるのではないかと思います。そして、物語の内容もだいたいわかる、知っているという方も多いでしょう。私もそんな中の一人でした。

6章3節に「人の一生は百二十年となった。」とありますが、7章6節には「ノアが六百歳のとき、」とあり、これはどういうことなんだろう？ と皆さまも疑問に思われたことと思います。注解書を読んでみますと、6章3節の訳は「人間の寿命は、百二十年までとする。」とも訳することができる、とあります。

5節からが洪水物語が始まるのですが、なぜ1節から4節の理解に難しい文章が書かれているのかは、編集の段階で特殊資料のような形で存在した伝承が、挿入されたのではないかとされているようです。

しかし、ここで見逃せないのは、大洪水を招いた神の怒りが単に人に向けられたものなのかどうかということです。2節の「神の子らは」とは、「神」というカテゴリーに属している存在を意味するとされています。3節の「とどまるべき」は何を意味するのかわかりません。4節のネフィリムとは、「巨人」を意味する言葉で、考古学的には「ホモ・ギガンテス」という種がいたと言われてもおり、「巨人」を意味します。

神の子が人の子に産ませたのがネフィリム（巨人）ということになります。しかも、神のカテゴリーに存在するものが人の子を妻にします。この交わりに対して神の言葉の記述はありませんが、その後から「洪水物語」が始まります……。

このことを踏まえて「ノアの箱舟・洪水」の物語を読み進めていきたいと思います。

洪水はなぜ起こったのか？ 主は、地上に人々の悪が増大し、心も罪に犯されているのをご覧になり悔やみ嘆かれた結果、裁きを下されます。しかしここでの後悔は、人の後悔とは意味が異なることに注意しなくてはならないようです。民数記23章19節の「人の子ではないから悔いることはない。」とあるように、私たち人間には理解できない仕方での後悔があるということのようです。

アダムとエバの三男であるセトの子孫が、悪を成す人々となり地に満ちてしまいます。そして、人だけでなく家畜や這うもの、空の鳥に至るまで全ての動物が地上からぬぐい去られます。人に治められていた自然や動物も共に苦痛を受けることになります。

人の罪が氾濫している中で、ノアだけが神の御心に叶った無垢な人として、救いの対象として描かれます。「ノア」という言葉の意味は「好意・恵み」を表すと言われています。「無垢な人」とは、「完全な、傷のない、責められるところのない」という意味となります。そして、「神と共に歩んだ」(9節)という表現は、ノアとエノクにのみ使われています。(5章22節) 主がノアを選ばれたのは、これから先、人の罪が繰り返されることのないように、との願いからだったのかもしれませんが。旧約で最初の「契約」を、主はノアと結ばれます。そして、箱舟を造ることを命じられ、箱舟に関する細かい指示を与え、完成したら箱舟に入り生き延びるようにしなさいと命じます。

「洪水神話」は、旧約聖書に限ったことではなく、(*)「ギルガメシュ叙事詩」や「インド神話」でも、伝えられています。罪深い人間たちを地上から一掃し、選ばれた者たちで世界を再出発させます。「ギルガメシュ叙事詩」はメソポタミアの最古の洪水伝説で4000年以上前に遡ります。神が起こす大洪水の前に、知恵の神エアに教えを受けた老人ウトナピシュティム

が箱舟を造って助かる物語です。老人は7日目に鳩、次いでカラスを地上に放ち、その鳥たちが戻って来ないので、地上から水が引いたことがわかります。

「インド神話」は、最高神ヴィシュヌは大洪水を起こして人々を滅ぼしました。しかし、マヌと7人の賢者だけは船に乗せて助けました。このマヌたちが、新しい人類の祖になり、以後の人間たちのために「マヌ法典」を作ったと伝えられています。この「マヌ法典」が現代のヒンズー教の基礎になりました。

ここで一つの疑問が浮かびます。箱舟の制作期間です。聖書にはその記述がありません。皆さまは何年だと聖書から読み解かれますでしょうか？ここで3節の「人の一生は百二十年となった。」という数字がヒントとなるとも言われています。他にもノアと三人の息子たちの年齢に関する記述から、様々な説があるようですが、一番短くても建設期間70年という説もあり、現代の私たちの感覚では、長い年月と言えらると思います。

神さまによる、「命の霊をもつすべて肉なるものを天の下から滅ぼす。地上のすべてのものは息絶える。」(17節)という裁きの一方で、箱舟建設の長い期間を待ってくださり、ノアを介して「人類の救済」「動物たちと自然界の救済」という恵みを与えられます。

箱舟大きさは、縦135m 横23m 高さ14mの3階建てと言われています。この箱舟の中で、ノアの家族と命あるもの全てと、全ての肉なるものの雄と雌、食料等も運び込まれて生活をします。ちょっと考えただけでも、想像を絶する苦痛を伴ったのではないかと思います。ノアという人は、約1年の箱舟生活期間の、ある意味試練ではないかと想像できる環境さえも、感謝して神に従い続けることのできる人だから選ばれたのかもしれないね。

ノアによって全ての命あるものの命が繋がります。9節の「これはノアの物語である。その世代の中で、ノアは神に従う無垢な人であった。ノアは神と共に歩んだ。」という記述が、どれほどの信仰の証であり、神に選ばれた人であったのかということが、改めて心に刺さります。そして主題聖句とさせていただいた6章22節の「ノアは、すべて神が命じられたとおりに果たした。」は、7章5節でも「ノアは、すべて主が命じられたとおりにした。」と書かれているように、この「すべて」を重く受け止めていきたいと思わされました。

私たちはお祈りをする時、「すべてをおゆだねいたします。」や「すべてを調べてください。」や「すべてあなたの御心にかないますように。」などと言葉にします。

罪深い私たちを赦してくださる主に、「すべて」をお捧げする信仰の歩みの一步を踏み出すことのできる強さを、いただきたいと願わずにはいられません。

(担当：岩崎 秀子)

～分かち合い～

☆ ノアのように、「すべてにおいて主に従う信仰の道を歩みます。」というお祈りをあなたはできますか？

(*) ギルガメシュ叙事詩

- ・ 世界最古の教養小説と言われ、以下のような主題で話が展開されている。
不死の研究・友情・シャマシュ信仰・主人公ギルガメシュの精神遍歴
- ・ 「旧約聖書」ノアの箱舟は、ギルガメシュ叙事詩のシュメールの大洪水との類似性が指摘されている。そして「サムエル記」における、ダビデとヨナタンの友情物語、ギリシア神話の「オデッセア」にも影響を与えたと言われている。

8/20-26 今週の聖書日課



8月20日(日) 創世記6章5 - 22節

5 主は、地上に人の悪が増し、常に悪いことばかりを心に思い計っているのを御覧になって、6 地上に人を造ったことを後悔し、心を痛められた。7 主は言われた。

「わたしは人を創造したが、これを地上からぬぐい去ろう。人だけでなく、家畜も這うものも空の鳥も。わたしはこれらを造ったことを後悔する。」8 しかし、ノアは主の好意を得た。

9 これはノアの物語である。その世代の中で、ノアは神に従う無垢な人であった。ノアは神と共に歩んだ。10 ノアには三人の息子、セム、ハム、ヤフェトが生まれた。

11 この地は神の前に墮落し、不法に満ちていた。12 神は地を御覧になった。見よ、それは墮落し、すべて肉なる者はこの地で墮落の道を歩んでいた。13 神はノアに言われた。

「すべて肉なるものを終わらせる時がわたしの前に来ている。彼らのゆえに不法が地に満ちている。見よ、わたしは地もろとも彼らを滅ぼす。

14 あなたはゴフェルの木の箱舟を造りなさい。箱舟には小部屋を幾つも造り、内側にも外側にもターールを塗りなさい。

15 次のようにしてそれを造りなさい。箱舟の長さを三百アンマ、幅を五十アンマ、高さを三十アンマにし、16 箱舟に明かり取りを造り、上から一アンマにして、それを仕上げなさい。箱舟の側面には戸口を造りなさい。また、一階と二階と三階を造りなさい。

17 見よ、わたしは地上に洪水をもたらし、命の霊をもつ、すべて肉なるものを天の下から滅ぼす。地上のすべてのものは息絶える。

18 わたしはあなたと契約を立てる。あなたは妻子や嫁たちと共に箱舟に入りなさい。19 また、すべて命あるもの、すべて肉なるものから、二つずつ箱舟に連れて入り、あなたと共に生き延びるようにしなさい。それらは、雄と雌でなければならない。20 それぞれの鳥、それぞれの家畜、それぞれの地を這うものが、二つずつあなたのところへ来て、生き延びるようにしなさい。21 更に、食べられる物はすべてあなたのところに集め、あなたと彼らの食糧としなさい。」

22 ノアは、すべて神が命じられたとおりに果たした。

「見よ、それは極めて良かった。」1:31 から「わたしは、これらを造ったことを後悔する。」7 節、

「見よ、わたしは地もろとも彼らを滅ぼす。」13 節と言われるまで全てをご覧になった神さまはどんなにガッカリされたことでしょうか。その中でノアが主と共に歩まれたことを思い、私たちが福音を告げ知らせる通り良き管となれます様に、主が来られるその日まで主と共に歩めますように助けて下さい。

8月21日(月) マタイによる福音書24章36 - 44節

36 「その日、その時は、だれも知らない。天使たちも子も知らない。ただ、父だけがご存じである。

37 人の子が来るのは、ノアの時と同じだからである。38 洪水になる前は、ノアが箱舟に入るその日まで、人々は食べたり飲んだり、めとったり嫁いだりしていた。39 そして、洪水が襲って来て一人

残らずさらうまで、何も気がつかなかった。人の子が来る場合も、このようである。 40 そのとき、畑に二人の男がいれば、一人は連れて行かれ、もう一人は残される。 41 二人の女が臼をひいていれば、一人は連れて行かれ、もう一人は残される。 42 だから、目を覚ましていなさい。いつの日、自分の主が帰って来られるのか、あなたがたには分からないからである。 43 このことをわきまえていなさい。家の主人は、泥棒が夜のいつごろやって来るかを知っていたら、目を覚ましていて、みすみす自分の家に押し入らせはしないだろう。 44 だから、あなたがたも用意していなさい。人の子は思いがけない時に来るからである。」

「目を覚ましていなさい。いつの日、自分の主が帰って来られるのか、あなたがたには分からないからである。」 42 節 緊張を感じますが「何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはみな加えて与えられる。」 マタイ 6:33 毎日の生活で何をしていても、主に焦点を合わせて歩めます様に、その日その時も主と共にあります様に、主よ憐れみお導き下さい。

8月22日(火) ペトロの手紙一 3章18-21節

18 キリストも、罪のためにただ一度苦しみました。正しい方が、正しくない者たちのために苦しまれたのです。あなたがたを神のもとへ導くためです。キリストは、肉では死に渡されましたが、霊では生きる者とされたのです。 19 そして、霊においてキリストは、捕らわれていた霊たちのところへ行って宣教されました。 20 この霊たちは、ノアの時代に箱舟が作られていた間、神が忍耐して待っておられたのに従わなかった者です。この箱舟に乗り込んだ数人、すなわち八人だけが水の中を通って救われました。 21 この水で前もって表された洗礼は、今やイエス・キリストの復活によってあなたがたをも救うのです。洗礼は、肉の汚れを取り除くことではなくて、神に正しい良心を願い求めることです。

「ただ正しい者が正しくない者たちのため苦しまれたのです。あなたがたを神のもとへ導くためです。」 「イエス・キリストの復活によってあなたがたをも救うのです。バプテスマは肉の汚れを取り除くことではなくて、神に正しい良心を願い求めることです。」のみ言葉に、救われて(罪許されて)安堵し挫しているだけで無く、日々正しい良心を願い求めて、悔い改めと成長を願われていることを示されます。

8月23日(水) ペトロの手紙二 3章6-9節

6 当時の世界は、その水によって洪水に押し流されて滅んでしまいました。7 しかし、現在の天と地とは、火で滅ぼされるために、同じ御言葉によって取っておかれ、不信心な者たちが裁かれて滅ぼされる日まで、そのままにしておかれるのです。

8 愛する人たち、このことだけは忘れないでほしい。主のもとでは、一日は千年のようで、千年は一日のようです。9 ある人たちは、遅いと考えているようですが、主は約束の実現を遅らせておられるわけではありません。そうではなく、一人も滅びないで皆が悔い改めるようにと、あなたがたのために忍耐しておられるのです。

主のみ言葉に聞き従うノアの家族と動物一つがいつの他全てを飲み込んだノアの時代の洪水。時を経て、今も主はイエスさまの贖いをもって、人々の悔い改めを忍耐を持って待ち続けておられます。元々は美しいエデンの園に、治める者として人を置いてくださったのですから、共に主に立ち帰って喜ばれる者になりましょう。

8月24日(木) 創世記1章24-25節

24 神は言われた。「地は、それぞれの生き物を産み出せ。家畜、這うもの、地の獣をそれぞれに産み出せ。」

そのようになった。25 神はそれぞれの地の獣、それぞれの家畜、それぞれの土を這うものを造られた。神はこれを見て、良しとされた。

「神はこれを見て、良しとされた。」25節 神さまの目には、天地万物(太陽、月星、海山、動植物等)全てが平等に良かったのです。主は分け隔てなく箱舟に乗せられました。人間社会を見ると肌の色や、住む国、仕事の違い、良い(悪い)者など勝手に差別をしています。主は私たち(一人一人)の違いも美しいものとして作って下さったのですから、私たちにも平等に見られる目と心がいただければ幸いです。

8月25日(金) 詩編104:5~9

5 主は地をその基の上に据えられた。

地は、世々限りなく、揺らぐことがない。

6 深淵は衣となって地を覆い

水は山々の上にとどまっていたが

7あなたが叱咤されると散って行き

とどろく御声に驚いて逃げ去った。

8水は山々を上り、谷を下り

あなたが彼らのために設けられた所に向かった。

9あなたは境を置き、水に越えることを禁じ

再び地を覆うことを禁じられた。

世界を見ますと自然は美しく、動物、植物も心をととても豊かにしてくれます。一方それらを治めるようにと言われた人間社会には、いつの時代も戦争や虐待、差別が後を立ちませんが、その中で助けに行かれる方々も、より良い世界をと深く願う方々も人間です。ノアの箱舟で救われて、これ以上、水では滅ぼし尽くすことはしないと云ってくださった主の憐れみに感謝いたします。

8月26日(土) ルカによる福音書13章22-27節

22 イエスは町や村を巡って教えながら、エルサレムへ向かって進んでおられた。 23すると、「主よ、救われる者は少ないのでしょうか」と言う人がいた。イエスは一同に言われた。 24「狭い戸口から入るように努めなさい。言っておくが、入ろうとしても入れない人が多いのだ。 25家の主人が立ち上がって、戸を閉めてしまってからでは、あなたがたが外に立って戸をたたき、『御主人様、開けてください』と言っても、『お前たちがどこの者か知らない』という答えが返ってくるだけである。 26そのとき、あなたがたは、『御一緒に食べたり飲んだりしましたし、また、わたしたちの広場でお教えを受けたのです』と言いだすだろう。 27しかし主人は、『お前たちがどこの者か知らない。不義を行う者ども、皆わたしから立ち去れ』と言うだろう。

ノアは「信仰によって」神さまからのお告げに従いました。神さまからのお告げがあった時に「信仰によって」従うことを選び取り、今ある所から歩みだしていくこと。「信仰がなければ、神に喜ばれることはできません。」(11:6) とあるように、神さまに喜ばれることをしていきたいですね。

(担当：渡部 和子)

第22課「箱舟生活」

聖書箇所： 創世記7章1～24節

主題聖句： 神はこのキリストを立て、その血によって信じる者のために罪を償う供え物となさいました。それは、今まで人が犯した罪を見逃して、神の義をお示しになるためです。(ローマの信徒への手紙3章25節)

今週の聖書教育誌の週題は「箱舟生活」です。

この週題のタイトルには少し悩まされました。箱舟生活という言葉に教案誌の編者の方はどんな思いを込めたのだろうかと思わず黙想の時間を要しました。「生活」と言う言葉の意味は「生存して活動すること、生きながらえること」「世の中で暮らしてゆくこと」(広辞苑第五版)とあります。

今回の学びから全人類が神に背信して生きてきた生活から、神に従う生活を改めて思い起こした物語として「ノアの箱舟」は語られているのだと示されました。

創世記 7:1 主はノアに言われた。「さあ、あなたとあなたの家族は皆、箱舟に入りなさい。この世代の中であなただけはわたしに従う人だと、わたしは認めている。」

ノアとその家族は何故、箱舟に入ることを赦されたのでしょうか。神のことばに従い忠実に箱舟を建造し完成させたからでしょうか。

神が箱舟を造ろうとされたのは何故でしょうか。

創世記 6:6 地上に人を造ったことを後悔し、心を痛められた。

神が後悔し、心を痛められたとは、いささか私にとってはショッキングなことです。神の創造のわざのなかで人間を創造したことを後悔されたと言われているのでしょうか。神は人間を神の形に似せて創られ、自由意志を与えてくださいました。それは人間には自分の意思で物事の選択・判断をして行動できるということでもあります。その結果として神の意に反することも人間は自由な存在なのです。ですから神に背信する罪の責任は私たち人間の側にあります。神は自由意志を与えて委ねられたのですから、罪の結果としての人間の墮落は予め知ってはあったものではなかったと言えます。故に後悔されたことも自分としてはわかります。

神が心を痛められたということも驚きです。私たちの日常の生活のなかでは心を痛めることに枚挙にいとまがありません。大小様々ですが日々、悩まされています。良かれと思い行った行為や言葉で相手を深く傷つけてしまった経験をされたことが皆さまにはおありでしょうか。私にはあります。その事実を気づき、知らされた時には確かに心が痛み続ける経験をしてきました。

7:23 地の面にいた生き物はすべて、人をはじめ、家畜、這うもの、空の鳥に至るまでぬぐい去られた。彼らは大地からぬぐい去られ、ノアと、彼と共に箱舟にいたものだけが残った。

神が私たち人間に無関心であるならば、後悔して、心を痛めることもなさらないでしょう。神の痛みとは私たち一人ひとりをお愛しておられるがゆえに、その背信の罪には深い神の怒りがあるのだと思います。

神の心の痛みの本質は私たち人間のエゴから起きる感情的な怒りの様とは全く異なるようです

「神の痛みの神学」を説いた北森嘉造先生は、「創世記講話」のなかで「神が心を痛めたということは、やはり、神の愛と神の怒りとの結びつきとみてよろしいと思います。神が世界を創造したということは、神の愛の発動でございました。この神の愛に背いた人間に対する神の愛の反応が神の怒りなのです。怒りとは裏切られた愛につける名前です。だから愛のないところには怒りは生じようがないのです。」と語っておられます。

創世記 6:13 神はノアに言われた。「すべて肉なるものを終わらせる時がわたしの前に来ている。彼らのゆえに不法が地に満ちている。見よ、わたしは地もろとも彼らを滅ぼす。」

先週も学びましたが、地にあるすべての肉なる者は不法を犯している。故に地もろとも彼らを滅ぼすと言われたのです。そこにはノアもその家族も例外ではないはずですが、しかしそこにノアとその家族を救うという神のご意思があったのです。何故でしょうか。

神の前に正しい人ではなく、この世代の中で神に従う無垢な人だと認めているからとノアとその家族を選んだ理由を「わたしに従う人だと、わたしは認めている。7:1」で告げられます。彼らは神の言われるとおりに海から離れた山里に箱舟を築いて完成させました。それを神はご覧になり、人間をすべて滅ぼすのではなく、忍耐して彼らの罪を見逃してくださいました。

それでは、神は人間の背信の罪をノアの行為によってすべて赦されることになったのでしょうか。いや、事実として神の怒りは洪水を起こし、四十日四十夜の間、雨が降り続いて地上のすべてが洪水に飲み込まれていったと聖書は語ります。神の怒りは途方もなく大きかったです。そして、また神の愛は途方もなく大きいゆえに忍耐の限りを尽くしてノアの家族を見逃すことをもしてくだしました。

その途方もない愛により私たち人間は洪水が収まった後に再び地上での生活をやり直すことができました。私たちは決して忘れることなく、この物語を胸に刻み生きていかなければならないと思われました。

神の愛に守られた「箱舟生活」は現代にも続いていると示されています。箱舟の中の生活は外の嵐・洪水から守られた安全で安心できる場所でした。私たちキリスト者は現代の箱舟であるキリストの愛のなかに、キリストの信仰共同体・教会のなかに包まれているのです。

ローマ 3:25 神はこのキリストを立て、その血によって信じる者のために罪を償う供え物となさいました。それは、今まで人が犯した罪を見逃して、神の義をお示しになるためです。

(担当：郷 秀男)

～分かち合い～

☆ ノアのように、「すべてにおいて主に従う信仰の道を歩みます。」というお祈りをあなたはできますか？



8月27日(日) 創世記7章1 - 24節

1 主はノアに言われた。

「さあ、あなたとあなたの家族は皆、箱舟に入りなさい。この世代の中であなただけはわたしに従う人だと、わたしは認めている。 2 あなたは清い動物をすべて七つがいつ取り、また、清くない動物をすべて一つがいつ取りなさい。 3 空の鳥も七つがいつ取りなさい。全地の面に子孫が生き続けるように。 4 七日の後、わたしは四十日四十夜地上に雨を降らせ、わたしが造ったすべての生き物を地の面からぬぐい去ることにした。」 5 ノアは、すべて主が命じられたとおりにした。

6 ノアが六百歳のとき、洪水が地上に起こり、水が地の上にみなぎった。 7 ノアは妻子や嫁たちと共に洪水を免れようと箱舟に入った。 8 清い動物も清くない動物も、鳥も地を這うものもすべて、 9 二つずつ箱舟のノアのもとに来た。それは神がノアに命じられたとおりに、雄と雌であった。

10 七日が過ぎて、洪水が地上に起こった。 11 ノアの生涯の第六百年、第二の月の十七日、この日、大いなる深淵の源がことごとく裂け、天の窓が開かれた。 12 雨が四十日四十夜地上に降り続いたが、 13 まさにこの日、ノアも、息子のセム、ハム、ヤフェト、ノアの妻、この三人の息子の嫁たちも、箱舟に入った。 14 彼らと共にそれぞれの獣、それぞれの家畜、それぞれの地を這うもの、それぞれの鳥、小鳥や翼のあるものすべて、 15 命の霊をもつ肉なるものは、二つずつノアのもとに来て箱舟に入った。 16 神が命じられたとおりに、すべて肉なるものの雄と雌とが来た。主は、ノアの後ろで戸を閉ざされた。

17 洪水は四十日間地上を覆った。水は次第に増して箱舟を押し上げ、箱舟は大地を離れて浮かんだ。 18 水は勢力を増し、地の上に大いにみなぎり、箱舟は水の面を漂った。 19 水はますます勢いを加えて地上にみなぎり、およそ天の下にある高い山はすべて覆われた。 20 水は勢いを増して更にその上十五アンマに達し、山々を覆った。

21 地上で動いていた肉なるものはすべて、鳥も家畜も獣も地に群がり這うものも人も、ことごとく息絶えた。 22 乾いた地のすべてのもののうち、その鼻に命の息と霊のあるものはことごとく死んだ。 23 地の面にいた生き物はすべて、人をはじめ、家畜、這うもの、空の鳥に至るまでぬぐい去られた。彼らは大地からぬぐい去られ、ノアと、彼と共に箱舟にいたものだけが残った。 24 水は百五十日の間、地上で勢いを失わなかった。

私が生まれる前から、主はご計画を立てておられました。この世に生まれ、私を生かさせてくださっています。主は言われます。「あなたが必要だからです」 主よ心より感謝致します。

8月28日(月) マルコによる福音書2章1-5節

1数日後、イエスが再びカファルナウムに来られると、家におられることが知れ渡り、2大勢の人が集まったので、戸口の辺りまですきまもないほどになった。イエスが御言葉を語っておられると、3四人の男が中風の人を運んで来た。4しかし、群衆に阻まれて、イエスのもとに連れて行くことができなかったので、イエスがおられる辺りの屋根をはがして穴をあけ、病人の寝ている床をつり降ろした。5イエスはその人たちの信仰を見て、中風の人に、「子よ、あなたの罪は赦される」と言われた。

イエスはその人たちの信仰を見て「子よ、あなたの罪は赦される」と言われた。なんとか、この人を救いたい。そのためなら…、どんな事でも…、その思い、努力、行動がイエスさまの心に届きました。

8月29日(火) ヨハネによる福音書10章7-10節

7イエスはまた言われた。「はっきり言っておく。わたしは羊の門である。8わたしより前に来た者は皆、盗人であり、強盗である。しかし、羊は彼らの言うことを聞かなかった。9わたしは門である。わたしを通って入る者は救われる。その人は、門を出入りして牧草を見つける。10盗人が来るのは、盗んだり、屠ったり、滅ぼしたりするためにほかならない。わたしが来たのは、羊が命を受けるため、しかも豊かに受けるためである。

わたしは門である。わたしを通って入る者は救われる」わたしはこの教会に導かれました。そしてイエスさまを知り、バプテスマを受けました(イエスさまの門を通りました)。今、たくさんの恵みを受けて、感謝と共に過ごしています。

8月30日(水) コリントの信徒への手紙二6章1-2節

1わたしたちはまた、神の協力者としてあなたがたに勧めます。神からいただいた恵みを無駄にしてはいけません。2なぜなら、

「恵みの時に、わたしはあなたの願いを聞き入れた。

救いの日に、わたしはあなたを助けた」

と神は言っておられるからです。今や、恵みの時、今こそ、救いの日。

「今や、恵みの時、今こそ救いの日」その時は今、最善を尽くしましょう。恐れることはありません。主より大いなる力が与えられています。

8月31日（木）ナホム書1章7節

主は恵み深く、苦しみの日には砦となり

主に身を寄せる者を御心に留められる。

主に身を寄せる者を御心に留められる。主は苦しみの時は大きな羽根で私を包んで下さいます。

主はたくさんの恵みを私に与えて下さいます。だから私は前に向かって歩いて行けます。

9月1日（金）ローマの信徒への手紙12章1-2節

1 こういうわけで、兄弟たち、神の憐れみによってあなたがたに勧めます。自分の体を神に喜ばれる聖なる生けるいけにえとして献げなさい。これこそ、あなたがたのなすべき礼拝です。 2 あなたがたはこの世に倣ってはなりません。むしろ、心を新たにして自分を変えていただき、何が神の御心であるか、何が善いことで、神に喜ばれ、また完全なことであるかをわきまえるようになりなさい。

「自分の体を神に喜ばれる聖なる生けるいけにえとして献げなさい。いけにえとは、神様のみ言葉を伝える伝道者になりなさい。と言うことでしょうか。つたない私ですが、主の喜ばれる行いに励みます。

9月2日（土）イザヤ書54章7-10節

7 わずかの間、わたしはあなたを捨てたが

深い憐れみをもってわたしはあなたを引き寄せる。

8 ひととき、激しく怒って顔をあなたから隠したが

とこしえの慈しみをもってあなたを憐れむと

あなたを贖う主は言われる。

9 これは、わたしにとってノアの洪水に等しい。

再び地上にノアの洪水を起こすことはない

あのととき誓い

今またわたしは誓う

再びあなたを怒り、責めることはない、と。

10山が移り、丘が揺らぐこともあろう。

しかし、わたしの慈しみはあなたから移らず

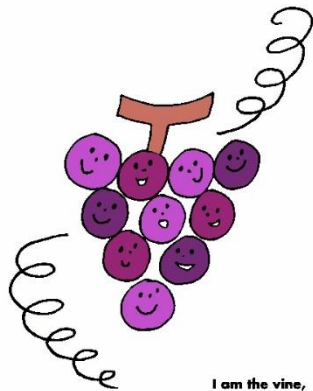
わたしの結ぶ平和の契約が揺らぐことはない

あなたを憐れむ主は言われる。

ひとときの激しい怒りのノアの洪水をもう起こす事はない。とこしえの慈しみをもってあなたを憐れむ。あなたとの平和の契約が揺らぐことはないと言われる。わが父、主よ、心より感謝と賛美を致します。

(担当：小沢 敬一)





I am the vine,
you are the branches
John 15:5

2023.8 成人科